

居合道 だより

第135号





先月24日、居合道伝達講習会を行った。

受講生の中には、もうすぐ84歳になられるTさん(二段)やもうすぐ88歳のY先生(七段)の姿もあって、みんなと一緒に熱心に稽古をされていた。

Tさんは、そのお年で二段ということは、当然80歳を過ぎてから居合を始めたということである。さらっと書いたが、それがどんなに凄いことか、ちょっと考えただけでも分かる。

しかも居合が実に堂に入っている。その年代の人としては背丈もあるし、がっちりとした体型をしていらっしゃる。お若かりし頃はさぞかし偉丈夫だったに違いない。

斬りも若い者に負けない迫力があるし、第一、身体の軸がぶれないのである。高段者だと言っても通用するような技前である。

以前にも紹介したが、Y先生は、二年前、86歳の時に居合道七段を取得された。

そして今年8月、剣道審査会で見事七段に合格された。

6月の講習会の折り、剣道七段に挑戦されることを聞いたとき、必ず合格されるだろうと思った。

もちろんY先生の居合の実力はよく承知しているが、剣道は拝見したことがなかった。

しかしY先生の居合やふだんの立ち居振る舞いを拝見していて、今までの人生で培われてきたのであろう品位と風格、そして何もののにも動じないような自然体。これぞ剣道、居合道の目指すところと日頃から感じていたからである。

聞いたところによると、Y先生は居合道も剣道も60歳を過ぎたころ、退職間近になって始められたとのことである。まさに生涯武道を実践されている。

他にも数年前、御年92歳で居合道五段を取得されたHさんもいらっしゃる。

この方たちがどれほど、後に続く我々に勇気と生きがいを与えて下さっていることか。

凄い！素晴らしい！それ以外に表現する言葉を持たないのがもどかしい。

『何かを始めるのに、遅すぎることはない』確かにその言葉を知ってはいたが、ここ十数年来、あれをやってみたい、これを習ってみたいと、ずうーっと思いつけているものが有りながら、無為に日々を過ごし、何ひとつとして実現していない自分を発見する。

105歳まで生きて、数々の社会活動をされた日野原重明医師は『時間を誰かのために使うことは、君たちが生きていくのに意味を持ってくる。命とは自分が持っている時間である』と仰った。

『50代、あるいは60代に向かおうとしているこれからは、いよいよ自分のやりたいように、自分が自分を開発する自由が与えられる時期です。そうして開発した自分を、社会に還元していくのが第二の使命だと思います』とも。

『 熟年よ！大志を抱け！！』

主な活動

9月2～3日	第45回居合道中央講習会	全剣連 京都武道センター
10日	福岡県居合道段位審査会	福岡剣連 福岡武道館
24日	福岡県居合道伝達講習会	福岡剣連 福岡武道館

10月・11月の活動予定

10月21日（土）	第52回全日本居合道大会	全剣連 広島県 広島サンプラザ
11月11日（土）	剣道・居合道・杖道教士称号筆記試験	全剣連 東京都千代田区・名古屋市・神戸市・福岡市
18日（土）	居合道6・7段審査会	全剣連 東京都
26日（日）	居合道部稽古会・級審査会	居合道部 福岡武道館

合格者の声



6月30日大阪府にて七段に合格させて頂きました。大阪は、私の生まれ育った故郷でもあり嬉しさも一入です。

審査当日には、福岡の先生方をはじめ多くの方々の励ましを受けました。

大阪時代の剣道の先輩も応援に駆けつけてくれて、心強い反面、失敗したらどうしよう... と弱気な部分も頭をよぎりました。しかしながら、福岡の先生から「津村は誰よりも稽古している。稽古量では誰にも負けない！」

その稽古量を見てもらうだけだから余所行きの居合をするな。」との叱咤。いま考えれば自分が弟子たちに言っている月並みな言葉なのですが、これが効きました。

いつも稽古で言われている軸をぶらさない、丹田に力を込めて... それだけを自分に言い聞かせて審査に臨みました。

上ずったのは控えに居るときのみ、審査場に入ってからには本当に自分の居合が出来たと思っています。

思い返せば、六段受領後に次の七段までに6年...

「無理だ！体力も気力も続かない！！。」といつまで持つのか、そればかり考えていました。

ところが、あっという間の6年。これから先も「無理」という言葉を禁句にして、日々の積み重ねを大事にしながら前に進んで行きたいと思います。有り難うございました。

津村 久美

合格者の声

6月30日大阪市中心体育館で開催されました、居合道七段審査を受審してきました。

6年前アクション福岡で六段にごうかくして、6年の年月が経ち、もう七段受験かと、時の流れの速さを感じました。

この6年間七段審査に向けて何ひとつ意識して稽古をしてこなかったことを今になって後悔しました。

審査が近づくにつれて、焦りを感じ稽古をしても納得できる振りができず、時間だけが過ぎて行きました。

4月に行われた、福岡武道館での自分の演舞を動画で見て、自分の癖が全然直ってないことに気づきました。まずこの癖を直すことから始めることに重点を置き、上段に振りかぶり斬りおろす時の段振り、斬りおろした後の切先の止まり、倒れた仮想敵に視線を落とす時の首の折れ、体捌きの時の体のふらつきを鏡で確認しながら修正して行く稽古に変え、技を抜く時間より基本的なことに時間を費やしました。

また、福岡県講習会の時に先生方から指摘されたところを意識しながら繰り返し稽古し、審査まであと1ヶ月に迫った時に全日本居合道大会の七段戦の動画を繰り返し見て、先生方の礼法、所作、抜き付け斬りつけ、体捌き、残心、品位、風格などを目に焼き付け、イメージしながら稽古に取り組みました。当日は六段審査と一緒に合格した先生方だったので、心強く、緊張がほぐれ、審査に臨むことができました。

今回七段合格にあたり、これまで色々と指導していただきました先生方、また応援していただきました会の皆様に心より感謝申し上げます。

これからは少しでも福岡県剣道連盟 居合道部に恩返しができればと思っております。

松坂徳昌

9月2,3日で京都で行われた全日本剣道連盟主催居合道中央講習会の伝達講習会が9月24日に行われました。

迫野居合道部会長の挨拶のあと、中央講習会に参加した井手先生を主任講師、小田、國方両先生を講師として全日本剣道連盟居合の解説と伝達を行いました。

全日本覇者の馬場先生を演武に國方先生解説でしたが「全日本剣道連盟居合道解説書」に沿って説明と擬音を交えて

身振り手振りの熱のこもった指導と、悪い所作をわざわざ実演してくれていた馬場先生の労苦にあらためて敬意を表します。

この後、休憩を挟んで4段以下と5段以上の2班に分かれて、1班を國方先生、2班を小田先生のリードで注意点を指摘されながら、作法から12本目までを交代で抜きました。

午後からは3班に分かれて、3段以下を國方先生、4、5段を井手先生、6、7段を小田先生が担当し特に6、7段の班では小田先生が審判講習を実施して、審判員の態度、姿勢のあり方から発声、旗の上げ下げまでを念入りにまた時に厳しく指導されて「福岡県の審判員としての責任と自覚」を強調されていました。

最後に迫野会長から「今日、指導を受けて感じたことをその場限りにしないで、今後の稽古の中で継続してください。」と心に刺さる一言を添えられて、閉会致しました。

以上





© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部
第135号 平成29年10月1日発行
発行：福岡県剣道連盟居合道部
URL : <http://riai.info/>
発行人：井手友太
〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1
TEL:092-322-0847